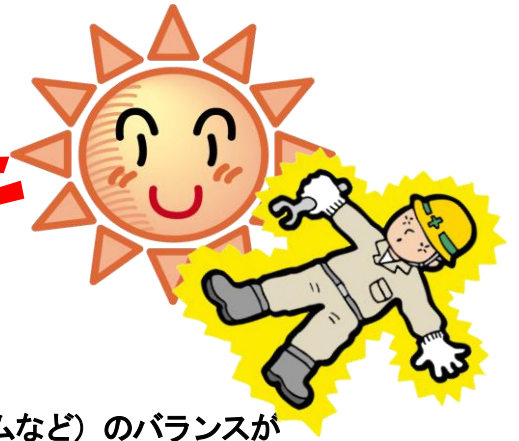


職場における 熱中症予防対策を ご存知ですか？



熱中症とは、高温多湿な環境下において、体内の水分及び塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして発症する障害の総称で、次の症状等が現れます。

めまい・失神 筋肉痛・筋肉の硬直 大量発汗

頭痛・気分の不快・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感

意識障害・けいれん・手足の運動障害 高体温



出雲労働基準監督署管内において、平成30年中に熱中症により労災請求があった労働者は39名と過去10年間で最も多くなり、4月から12月にかけて発生しています。

**予防対策についてチェックしてみましょう
(早めの準備が大切です)**

職場における熱中症予防対策（平成21年6月19日付け基発第0619001号）自主点検表

- ① WBGT値（暑さ指数）を知っていますか
- ② WBGT値（暑さ指数）の低減を図っていますか
- ③ 休憩場所は整備していますか
- ④ 高温多湿作業場所などで、連続作業時間の短縮を図っていますか
- ⑤ 高温多湿作業場所に労働者を就かせる際に、身体を慣れさせる期間を設けていますか
- ⑥ 自覚症状の有無に関わらず、労働者に水分・塩分を摂取させていますか
- ⑦ 労働者に透湿性・通気性の良い服装や帽子を着用させていますか
- ⑧ 作業中の巡視を行っていますか
- ⑨ 健康診断結果に基づき、就業場所の変更・作業転換等の措置を講じていますか
- ⑩ 日常の健康管理について、労働者に指導していますか
- ⑪ 作業開始前、作業中に、労働者の健康状態を確認していますか
- ⑫ 体温計等を常備し、必要に応じて身体の状態を確認できるようにしていますか
- ⑬ 熱中症を予防するための労働衛生教育を行っていますか
- ⑭ 熱中症の発症に備えて、緊急連絡網を作成し、関係者に周知していますか
- ⑮ 熱中症を疑わせる症状が現れた場合の救急処置を知っていますか

**高温多湿な環境では熱中症が多発します
職場の熱中症予防に努めましょう！**

熱中症発生状況

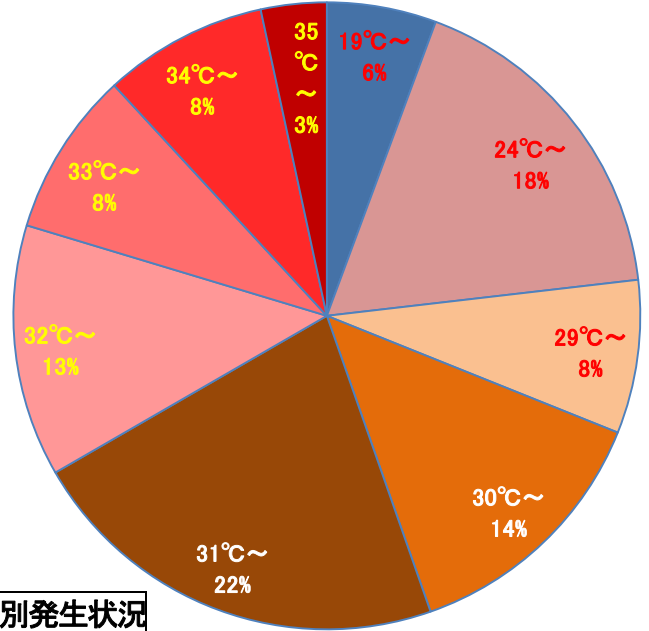
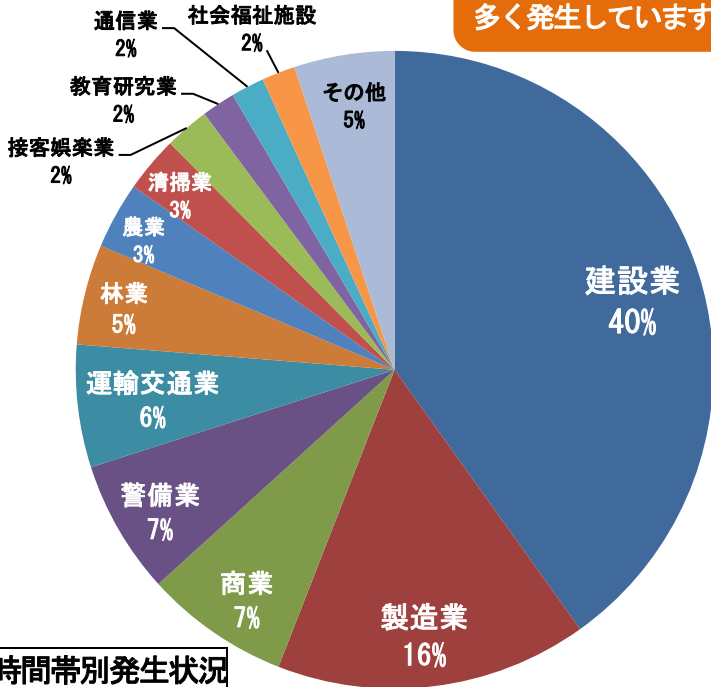
平成22年から平成30年に出雲労働基準監督署管内で発生した熱中症合計177件を分析したところ、次のような状況となりました。職場における熱中症職場における熱中症を予防するためにお役立てください。

業種別発生状況

建設業や製造業以外にも多く発生しています

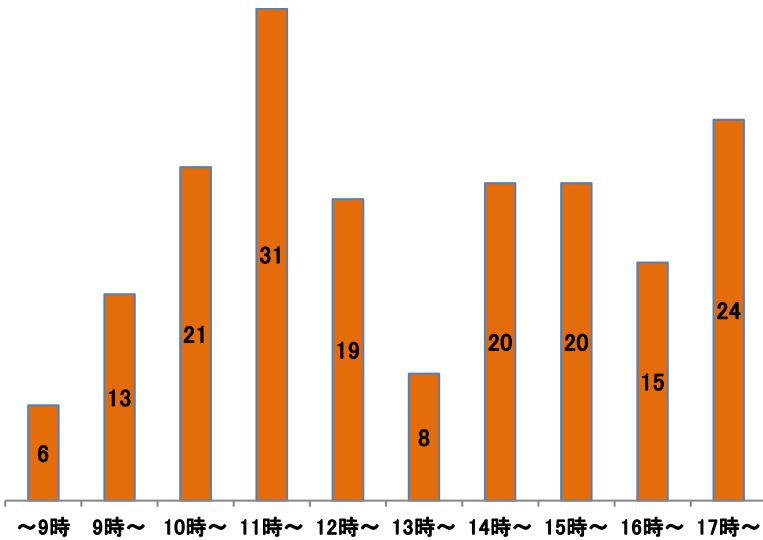
気温別発生状況

気温が低い場合でも、湿度が高い場合や体が気温の変化に慣れていない場合、熱中症が発症する場合があります

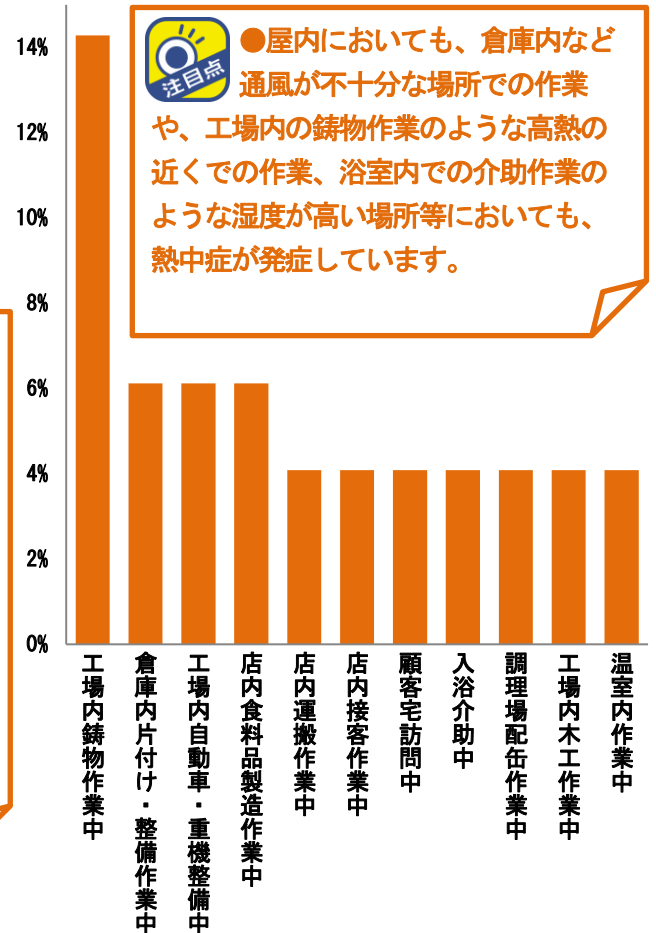


時間帯別発生状況

屋内・外別発生状況



主な屋内作業別発生状況



注目点 ●屋内においても、倉庫内など通風が不十分な場所での作業や、工場内の鋳物作業のような高熱の近くでの作業、浴室での介助作業のような湿度が高い場所等においても、熱中症が発症しています。

月別発生状況

ポイント ●熱中症は、仕事にその症状がない場合でも帰宅後などに発症する場合があります。
●暑くない時期でも、
・身体が慣れていない
・湿度が高い
・急に熱くなる
などにより熱中症が発症する場合があります。

